

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473201240
法人名	株式会社 アイシマ
事業所名	グループホーム ずうずう
訪問調査日	平成21年4月20日
評価確定日	平成21年5月31日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 4月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	第1473201240号
法人名	株式会社 アイシマ
事業所名	グループホーム ずうずう
所在地	横浜市旭区中希望が丘165-3 (電話) 045-366-5513

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年4月20日	評価確定日	平成21年5月31日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 10日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	20人	常勤 6人	非常勤 14人	常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2階建ての 1,2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	31,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	250 円
	または1日当たり 1,400 円			

(4) 利用者の概要 (3月10日 現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	52 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みひらクリニック 高座渋谷クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

横浜市泉・瀬谷区を中心に十数か所のグループホームを持つ「株式会社アイシマ」が運営する「ずうずう」は平成18年3月に開設され、閑静な住宅地の中にあります。このホームの特徴としては、医療との連携が充実していることが挙げられます。医療連携加算を取っており、内科と精神科医師が2週間に1度、歯科と看護師は週に1度の往診があり、ターミナルケアも経験しています。その他の特徴として、外出の機会を増やしていることが挙げられます。散歩を頻繁に行き、法人が運営するレストランで月2回の音楽療法や食事会を行い、花見などの外出の行事も数多く行っています。また、1階の浴室には重度の利用者の方でも入浴が容易に出来るように機械浴の設備を設置していることやアクティビティーに力を入れ「パタカラ体操」と名づけた口腔体操やリズム体操を行っていることも特徴です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題は「日常的な外出支援」が挙げられていました。前回評価結果後にホーム会議を行い、日常的な外出支援について話し合い、積極的に散歩の機会を多くするように改善しています。「散歩表」を作成し、利用者各自の回数等の把握をひと目で出来るようにしています。そのほか、利用者の意向をより多く把握するためにケース記録には利用者の言葉をそのまま記入するように改善しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム会議で職員に自己評価について説明し、管理者が職員に意見を聞いたり、自己評価票のコピーを配布して、主任と管理者がまとめました。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>今年度は、2ヶ月に1度合計6回の運営推進会議を開催しています。運営推進会議を活かした取り組みとして地域ケアプラザ主催の4回連続の「生き生き生活講座」に5名の利用者が参加しました。また、災害時における避難方法について話し合い、避難訓練の参考にしていきます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情・相談マニュアルが整備され、「利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要」「苦情相談記録票」「窓口担当者処理体制手順」があり対応しています。家族からの意見として運営推進会議の家族代表の出席についてや領収証の記載がわかりづらいとの意見があり、それぞれ対応しています。家族会は、昨年7月に開催しています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、回覧板が回ってきます。旭区老人の集う会に参加しています。散歩の時には、必ず挨拶をして、公園では、ゴミ拾いをしています。また、隣接の美容院を定期的に利用する等地域の人々との交流に気を配っています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に地域密着主義を掲げ、それに基づき「地域との交流を図りながら笑顔のたえない居心地の良いホームをめざします。」という事業所独自の理念を掲げています。自治会に加入し、地域との交流を図っています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時の研修において理念を説明し、理解してもらっています。理念は、玄関・事務所などの目につくところに掲示し、業務を行う前に再確認しています。ホーム会議で理念に沿ったケアが実践されているかを振り返り、話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板が回ってきます。自治会の行事に利用者が参加しています。散歩を日課としており、出会った方とは必ず挨拶をしています。近くの公園では、ゴミ袋を持参し、ゴミを拾っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム会議で職員に外部評価の意義・目的を説明しています。今回の自己評価は、職員に質問したり、自己評価票を渡し、記入してもらいました。前回評価で指摘を受けたことについてホーム会議で話し合い、改善しています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催されています。運営推進会議は、民生児童委員2名と地域ケアプラザ職員、利用者家族2名で行い、率直な意見交換の場となっています。地域ケアプラザ主催の「生き生き生活講座」に利用者が参加しました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政が関与している利用者がいるので、行政の担当のケースワーカーには、利用者のことで報告や相談をしています。消防署との関係では、9月24・25・27日に消防署の職員による「普通救命講習会」を行っています。また、旭区高齢者グループホーム連絡会に参加しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、日常の様子を話しています。面会に来られない家族には、月に1度必ず電話連絡をしています。「美しい夜便り」を作成し、写真を中心にした行事開催の報告を載せ、請求書と一緒に家族へ送付しています。家族会は年1回開催し、家族への報告等を行っています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談マニュアルが整備され、苦情・相談記録票が作成されています。契約時には、ホーム苦情相談窓口の担当者と外部苦情申立機関の連絡先を知らせています。面会時や家族会、運営推進会議等で意見等を聞いています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・離職は極力さけてはいますが、新しい職員が入った場合には、管理者が紹介したのち、新入職員が自己紹介するようにしています。しばらくの間は、マツマンでベテラン職員と一緒に支援をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回法人グループ内の研修会を開催しています。出席した職員には、報告書を法人本部に提出する体制をとっています。出席できない職員に対しても研修会の内容を閲覧し、報告書を法人本部に提出するようになっています。外部研修にも積極的に参加しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会に参加しています。旭区高齢者グループホーム連絡会の研修会ではグループ討議が行われ、地域の同業者と意見交換をする機会があります。運営推進会議を地域のグループホーム合同で行われるように提案しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人グループ本部が本人・家族にグループ内の複数のホームを見学してもらい、希望に沿って入居してもらっています。「受付から入居までのチェックリスト」が作成され、入居判定会議を法人グループ本部の担当者と多くの職員が参加して行い、入居がスムーズに行われるように配慮しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>コミュニケーションを大切にしながら、共に学ぶ意識を持ち、人生の先輩という意識で接しています。利用者から料理の味付けや歌を教えてもらいながら一緒に日々を過ごしています。生活の場として利用者と職員が共に過ごし支えあう関係作りをしています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々の利用者への話しかけや対応を通じて意思疎通を図り、一人ひとりの思いや意向を業務日誌などに記録し職員で共有化しています。一対一での対話では緊張してしまう利用者に対しては日常介護の中で意向を把握するよう努めています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の日常の暮らしの中からくみ取った課題をケース記録や業務日誌に記録し、カンファレンスで共有化しています。又、家族と相談し家族の希望も考慮して介護計画を作成しています。利用者が少しでもできる事の実施や笑顔が増えるよう職員は心がけて支援しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>概ね3ヶ月に一度の見直しのほか、緊急性を要する場合や体調に変化が見られた場合はカンファレンスを実施し家族とも相談の上、状況にあった介護計画に見直しています。なお、その際は、本人の望んでいるものを大事にしています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を支える関係医療機関や訪問介護ステーションと連携を取りながら、24時間対応の医療支援を実施しています。又、法人内の小規模多機能施設との連携や外食・音楽療法の出来る法人内の施設を活用した支援を実施しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科を主に受診する方と精神科を主とする方と主治医を二人にした体制を取っており、2週間に一度の往診が有ります。なお、病状の変化によっては主治医を変更する事もできます。歯科医は週1回の往診であり、看護師による週一度の健康管理が実施されています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に行われる重要事項説明の際、重度化した場合やターミナルケアについて説明しています。重度化した場合はタイミングを見て、利用者、家族、主治医、看護師、管理者が意向を確かめあって対応方針を話し合い共有化しています。昨年、ターミナルの体験をし、関係者の体制も整っています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には入職時の研修で、その後は、内部研修やホーム会議等で個人情報に関する教育が実施されています。個人情報に関する書類は鍵付きのロッカーに保管されています。なお、法人内には「ケアの在り方検討委員会」があり、その中で、チェックシートを使って、個人情報に関する自己評価を行っています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の暮らしは個人のペースにあわせ、本人が行いたいことを優先して実施できるよう支援しています。起床・就寝は利用者の意思を尊重しており、入浴は曜日や時間等の決め事はしてはしません。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の新鮮度が分かるよう、日付け貼りを利用者と一緒に実施しながら献立を検討しています。配膳は実施できる利用者が行き、食前には全員で口腔体操を行っています。ホームの畑で利用者が作っている野菜が食卓にのるのを楽しみにしています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴は何時でも出来るようになっていきます。湯加減の温度を指定する方、シャワー浴を希望する方など、利用者の希望に対応しています。入浴表を作成し、頻度を把握しています。車いすごと入浴できる機械浴槽もあります。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外部のカラオケ教室やお茶のお稽古に通っている方、逆に、俳句仲間が訪ねてきて談笑したりする機会もあります。家事のお手伝い等、利用者一人ひとりの生活歴や趣味、出来る事、好きなことを把握し、その人の希望に合わせて実施できるよう支援しています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	いくつかの散歩コースがあり、その時々により散歩コースを変えています。近くの歴史的な公園には季節の写真を撮りに行ったり、近くの地区センターを利用し卓球を楽しむ機会もあります。これらを「散歩表」に記録し、全員の外出状況を把握しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居したばかりの利用者もいる事やホームの二面の道路は車の交通量もあり、安全性の確保の面からリビングと玄関には施錠しています。現在施錠の件で特段のトラブルは発生していませんが、鍵を掛ける事の弊害は職員も理解し対処しています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全員がリビングに集まっている時を利用して避難訓練を実施しています。ベランダには水を備蓄して災害時に備えています。消防署員による、AEDの使用訓練を実施しているほか運営推進会議では災害時の避難方法について話し合っています。		災害時に備え、個人情報のファイルと共に一定量の食料と飲み水は備蓄されていますが、できれば食料、飲み水について、3日分程度は確保するよう対応が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量はその都度記録し、脱水症状にならない様に配慮しています。特に野菜中心の薄味に気を使っているほか、年齢や糖尿病等、その方に合わせた食事を提供しています。定期的に管理栄養士によるメニューチェックと栄養バランスの指導を受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、リビングには手作りの飾りや利用者による絵画や俳句が飾られています。共用空間は10時と15時には換気され、採光も調整されています。浴室のマットは一人ひとり交換しており、利用者全員が気持ち良く生活できるよう気を配っています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた和・洋ダンス等の持ち込みができます。テレビ、本棚、写真など好みにより配置されています。衣類はクローゼットで整理され、居室には換気装置もあり、居心地良い居室となっています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームずうずう
(ユニット名)	ほたる
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	管理者 関水啓道
記入日	平成21年3月20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の人々との交流を目標に、明確な運営理念を掲げて、実現に取り組んでいる。グループホームは孤立するのではなく、地域で生活しているという意識を理念に挙げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ホームの玄関や義務室に理念を貼って、業務を行うまえには再確認することを決めている。ホーム会議を月1回行い、理念に添ったケアが実践されているか振り返り、またケアに疑問が生じた場合その都度カンファレンスを行っている。</p>	<p>現在の理念が達成できた際には、新しい理念を掲げ向上したいと考えている、</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に理念の説明をするともに、玄関を入るとすぐ目のとまる場所に、ホームの理念を掲げており、家族や訪問者に、理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩の時など、日常的に近隣の方々と挨拶を交わしている。また、畑での収穫や花の手入れをしているときなどには近隣の方から「きれいですね」と自然に声がかかるような関係になっている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入していて、回覧板を回したり、自治会の古紙回収に参加している。地域の理美容を定期的に利用していて、地元の人々との交流を図り自治会の敬老会などにも参加させて頂いている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム、小規模多機能施設の理解を深めてもらう為に、地域の方々と、介護教室を行っている。介護に関する知識や、ケアの在り方等話し合い、暮らしのなかで役立てていられるように、取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム全体で、評価の意義を話し合い、振り返りや、今後の課題をあげて、現実に実践していかれるように、具体的な取り組み方法をうちだしてみた。前回の外部評価後、ホーム会議を行い指摘されたことについて話し合いを行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告から、サービスの実際、それに伴う課題等、率直な意見交換の場になっている。行っている回数も増えているため会議もスムーズに行うことが出来ている。外出企画の意見を頂き自治会主催の敬老会にも参加させて頂いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で、現状報告している。その時に分からないことを相談している。又、生保担当者とは定期的に連絡をとり、意見を求めたりしている。書類を提出する際は、なるべく役所まで足を運び連携を取っている。旭区に行っている勉強会や、横浜市の研修にも参加している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の抱えている問題等に関して、家族の意見、意向を反映しているが、利用者を支える視点から、代弁者の役割を果たしている。法人での勉強会において成年後見などの勉強を行っている。また、区役所の研修等にも参加している。利用者の抱える問題に関して家族の意見等を反映し、利用者を支える視点から代弁している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人においてケアの在り方委員会が立ち上げられており、マニュアルが作られている。勉強会やホーム会議で話し合いを行い、虐待に関する理解を深めている。研修参加後レポート作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、入居契約書他書類一式を、口頭で読み上げて十分な説明をしている。不安、疑問点がある場合は、理解し納得していただいてから、移り住んで頂いている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から、利用者の意見や思いが、伝えて来られるような雰囲気作りをしている。相談、苦情窓口は管理者が対応し、管理者から統括責任者へ報告している。玄関を入ると目の止まる場所に、外部へ表せる、運営適正委員会の連絡先を表示している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時には、状況を見計らい日常の様子を伝えている。心身の状況変化や、面会に来られない家族に対しては、電話連絡して、状況を伝えている。直接利用者と家族が、電話で話しができるようにしている。定期的にホームだよりを作成し行事などの様子を感じて頂いている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に公的窓口が記載されており、契約の際に説明している。また、第三者機関についても入居時に説明している。相談窓口として、管理者が対応して統括責任者へ報告している。また、家族会を開催し、直接意見を聞いている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からの意見や提案は特に重視し、その意見や提案を活かしている。ホーム会議を月1回開催し、話し合える環境が整っている。またスタッフに運営の状態を伝えることもある。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その時の状況に応じて、職員の勤務変更をする時がある。一日の流れに変化をきたさない様に、馴染みの職員の配置をしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設当初からの職員がおり、利用者との信頼関係が保たれている。職員の異動は最小限であり、代わる場合は、馴染みの職員と共に支援し、利用者の負担を少なくしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月最終水曜日に行っている社内研修があり、各ホームが担当制で、その時々に応じた様々な内容の研修を行う。外部研修についても、スタッフのレベルにあったものに参加しレポートを作成しホーム会議などで発表する場をもうけている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ全体で16のグループホームがあり、勉強会や交流する機会がある。他のホームを見学して、より良いサービスの向上を目指している。横浜市の連絡会や、旭区のブロック会議に参加して、他のグループホームとの関わりを持っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一人で悩まない。抱え込まない。と、日頃から統括責任者の方針である。小さな事でも、職員の悩みや相談は、管理者や課長に話している。他のグループとの交流や、社内旅行、納涼祭、忘年会等の催しで、親睦を図っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎日、一生懸命利用者に接する姿をみて、感謝の気持ちがいっぱいである。日頃の意見や提案を真摯に受けとめて、尊重していく。運営者も職場の状況を把握している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談窓口は、企画室を通して。そこで、本人の求めていることや、不安なこと等聴きだしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談窓口は、企画室を通して。利用する方や家族の抱えている問題をよく聴いて、受け止める努力をしている。又、入所前にホームを見学して頂き、家族に雰囲気を感じてもらおう。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の相談から、よく話を聴いたうえで、現在必要としている課題から、緊急性のある問題を重視して、他の機関と連携をとりながら対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居決定する前に、ホーム内をよく見てもらっている。そこで、職員や入居者と、お茶を一緒に飲みながら話をして雰囲気分かってもらおう。趣味が同じで、話が盛り上がったこともある。入居している方の好意で、室内を見学させて頂くこともある。また管理者が家族と直接話し合いを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるあるという事もあり、スタッフから入居者様に質問しいろんなことを学んでいる。日中の生活の中で、昔されていたことえをヒントに会話を行っている。食事を作るときなど味付けについて聞いてみたり一緒に台所に入り食事を作ることもある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を多くし、お互いに忌憚りの無い意見を出し合い、一緒に考え、支えるようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係や、家族の生活環境を配慮した上で、利用者が安心のある暮らしができるように、努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に手紙を出し訪問してもらい散歩に言ったりするなど、手紙や電話を使い、入居前の関係性を保つようになっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の役割分担が、自然の形で成り立っている。下膳が難しい利用者は、できる方に手伝ってもらおう等利用者同士の関係がうまくいっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今後において、サービス利用が終了し、関わりを必要としている場合は、関係作りを大切にしていきたいと、考えている。		サービスが終了してもその方の状況を聞きだしアドバイスができればと考えている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに即した話しかけや対応が、自然の形で成り立ち、意思の疎通が図れている。又、伝えてこられない利用者は、日常の様子から情報交換して、その都度家族に伝え、対応方法を検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具、机、を使って頂いている。また、お孫さんの写真など家族の写真を飾っている方も居る。入居前に馴染みのある物で部屋を作って頂くよう説明している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	起床や就寝は、個々のペースを尊重している。日中の過ごし方は、それぞれの方に合わせて対応している。また共に出来る事を見つけ出すよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の暮らしは、日常から職員が様子観察して、カンファレンスにおいて、本人の出来そうな活動や課題を話し合い、検討している。日々の会話の中で何を求めているか見つけ出し、本人と話し合いを行って、本人の事が出来ることからケアプランを作成している。その際、家族にも相談し希望を聞きだしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間に拘らず、緊急性を要する場合や大きな変化が見られた場合、ケアカンファレンスや家族とも相談し、状況に合ったプランを随時作成している。プランを作成する前に現在、「何を望まれているのか」本人とも話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録から、日常の様子の情報を朝・夕の申し送り、業務日誌を通して共有している。また、それらの記録から、食事摂取量・水分摂取量・排泄状況等が把握でき、介護計画の見直し・評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連医療機関みひらクリニックや高座渋谷クリニック、訪問看護ステーション、小規模多機能との機関との関わりを持っている。また風の音にて、音楽療法や外食に出かけることもあり。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアによるハ-モニカ演奏、バイオリン、大正琴、民謡や、運営推進委員の民生委員の協力により地区の行事にも参加させて頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の介護支援事業所には、その必要性に応じて相談の受け入れをしてくれるケアマネジャーがいて、専門的なアドバイスをしてくれている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが開催する行事を通して、利用者の作品を展示する機会を作っただき、利用者が見学している。地域包括支援センターからのお便りもあり情報を交換している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、主治医体制を2人にし内科が主な方と精神科の方で主治医を分けている。病状の変化によっては主治医を交換することもあり。また訪問看護、訪問歯科、などの往診も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科による往診があるため、その際にいつでも相談できる体制が整っている。また精神的に不安定なことがある際、24時間で対応して下さる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週火曜日に、訪問看護師による健康チェックがあり、日常の健康管理をしてもらっている。24時間緊急時など、利用者に変化がある時は対応してくれている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の医療機関と連携を密にとっている。入院中の状態や、退院に向けての情報交換や相談を行い、面会時などに主治医と話し、早期退院に向けてコミュニケーションを図っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の重要説明事項に、ターミナルケアの説明をしている。重度化した場合は、早い段階で、利用者、主治医、家族、管理者、看護師とでムネテラを行い意向を確かめている。その後、会議を行いどのように対応していくのか話し合いを行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々変化していくため主治医、看護師と連携を取り今後どのような症状がでてくるのか確認し、スタッフに伝えている。また家族にも状態を伝え終末期のことを理解して頂いている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人の生活に支障がないように、医療、福祉関係者と情報交換の上、申し送りを十分に行い移り住んで頂いている。これまでの暮らしと変化がないように情報を提供し家族、利用者様が納得してから入居して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時に、オリエンテーション、ホーム会議では接遇についての、説明を行なっている。一人ひとりの人格を尊重した対応で接している。個人情報に関する勉強会開催し、個人情報に関する書類は、鍵のかかる場所に保管している。法人で、ケアの在り方委員会を立ち上げ、ケア全体について統一した情報、意識を持っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりに日常生活の中で自然に話し合える環境を作っている。ケアプランなども自分が行ないたいことを決めていくこともある。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日常の暮らしは個々のペースに合わせて、本人が行ないたいことを優先して支援している。アクティビティも個々に合ったものを探していくことを目標にしている。入浴の日にもちなども決まっておらず好きな時に入浴して頂いている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人の希望で、通い慣れた地域の美容院や床屋に行き、好みの髪型にしている方もいらっしゃる。また、化粧をされたり、毎日洋服を選びおしゃれを楽しむ方も多い。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の日づけ貼りを利用者と一緒にし、その時に、献立を考えたりしている。献立は立てておらず、一緒にその日の献立を考えている。利用者様に味見や盛り付け、配膳のどを行って頂いている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒やタバコを吸われる方はいない。館内は禁煙になっている。しかし、おやつ時他、コーヒーや牛乳などの好きな飲み物を随時提供できるようにはなっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を基に時間による排泄パターンを把握して継続して、支援をおこなっている。尿意の薄い方は、定時にトイレにお誘いし日中尿失禁される方は少ない。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的にいつでも入れるようになっていきます。声掛けし「入りたい」と返答があった場合に入浴して頂いている、入浴表もある為、入浴の頻度を把握している。機械浴槽もあるためその方にあった入浴の形態がある。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々にあわせ生活のリズムを把握し、そのときの状態に合わせて対応する。日中はなるべくフロアーで過ごしていただけるような環境を作り、夜間安眠できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	中庭に野菜を栽培しており、利用者と一緒に収穫し食事に使う等をしている。また、男性利用者は、朝のゴミだしを手伝って下さるなどそれぞれに合わせた役割を持ってもらっている。日常的に一緒におやつを食べながらお話し、家事仕事が好きな方には、職員と一緒に手伝いをお願いしたりと、その方らしく過ごしてもらっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、入居者様自身での金銭管理はしていないが、理美容を利用したときのお金の支払いや、買い物に行った時に、入居者様にお金を渡し会計をしていただくようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩のコースがいくつかあり、その時によってコースを変えている。季節の行事が近づくと、近くに歴史のある公園に行くと、写真を撮ったりしている。また、買い物に行く際には職員だけで出かけるのではなく、利用者も一緒に買い物をする事が多い。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	グループ全体で行っている納涼祭があり、それには家族も一緒に参加してくれている。また、家族と出かけたいと声が聞かれるときは、家族に連絡を取っている。風の音にて外食や音楽療法に外出されている。		

項目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		利用者が希望されるときに家族や友人に電話を掛けていただいている。また、年賀状などはご自分で家族に出している方もおり、書けない方は職員と一緒に作成して出す方もいる。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している		気軽に訪問してもらおう体制が整っている。訪問して来られると、リビングやご自分の部屋など落ち着く場所で、過ごしてもらっている。また、ゲストルームもあり、お茶などを一緒に飲んでいただき楽しませている。気兼ねなく話をしやすい環境を作り出すようにしている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		身体拘束を行わないことは、入居契約書に説明されている。毎月1回行われる勉強会で勉強したり、マニュアルが作成されているおり、身体拘束は行なわないという統一した意識を持っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		グループホームに周りは道が狭い割には交通量が多く、不審者などの話も聞かれるため、防犯上やむを得ず常時鍵を掛けて対応している。リビングのサッシにも鍵がかかっているが中庭に散歩される方もいらっしゃる。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		キッチン是对面式で、フロアが見渡せる作りになっている。各部屋のドアの一部10センチ四方の小窓に布を張って、普段はプライバシーに配慮し見えなくしてあるが、物音や異常を察した時には、確認のため点検している。夜間は1時間毎に巡視を行い、(入居)者様の安全確認している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		髭剃りは事務所預かりとし、入浴時に剃る方はその都度渡し、見守りもしくは介助している。また、自立度の高い方は自分で爪きり等を保管している方もいるが、使用するときにはフロアで見守りの元使うように対応している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		事故防止のマニュアルがあり、周知、徹底している。グループ全体の連絡体制が整っていて、事故防止に取り組んでいる。また消防署の方にホームで講習を行い窒息時の対応法を学んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師や管理者からの情報を共有し、応急手当や初期対応ができるように、普段から意識して話し合っている。社内研修で学ぶ事もある。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全員がリビングに集まっている時を利用して、緊急時の非難訓練をしている。ベランダには、災害用の水を備蓄してある。運営推進会議で、災害時における非難方法を話しあった。地域の人との交流が大事であり、今後も大切にお付き合いをしていく。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご本人や、家族に現状を伝えて今後考えられるリスクなどを説明している。そのうえで、支援方法を検討している。また入居者様の意見も取り入れている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝食後のバイタルチェック、日曜日の体重測定、毎週木曜日の訪看による、健康チェック等を行い、小さな変化でも見逃さずに、勤務者同士で確認して、管理者へ報告している。管理者は訪問看護師へ状況報告し、対応相談している。そのときの指示により、必要性があれば受診している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、名前、日付、服薬時間が記されている。個人ファイルに処方せんがはいつており、現在処方されている薬を確認することができる。また、薬を飲んでいても症状が改善されない場合などには主治医に伝えている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消のために、牛乳を飲んでいる人もいるが、普段から野菜を多く取り入れて、食事をつくっている。その他にも入浴や運動により腸の動きを良くするという意識を持っている。日々排便状況を確認し、対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科医により、口腔衛生と診療があり、指導指示助言をうけている。その方にあわせて、毎食後、声かけ、見守り、介助しながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に献立をチェックしてもらい、栄養が偏らないようにバランスの良い献立を考えて調理している。一人ひとりの食事や水分摂取量は、その都度記録しており、脱水症にならないように注意している。また、糖尿病の方、年齢等に応じそれぞれにの分量も把握しており提供している。具合の悪いときなどは、お粥や刻み食を提供するなどもしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者及び職員の予防接種施行。感染症委員会が立ち上げられていて、マニュアルが作成されている。蓋付きのパケツの中に、緊急時に対応できる一式を準備している。又、うがい、手洗いの励行を全員が周知、徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、台所布巾漂白、天日干し。まな板、包丁熱湯消毒、漂白をしている。一週間に1度冷蔵庫のアルコール消毒と、食材にすべて日付を記入している。調理した食材は、長時間放置しない、残り物は捨てることを徹底している。キッチンには常に清潔を心掛け、床掃除一日2回行っている。食材も必要な量のみを購入するように心掛けており、新鮮な物を提供		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	歩きやすく、車椅子が通れるように、玄関周りは広いスペースをとっている。四季折々の花の鉢植えで、周りの雰囲気明るくしている。庭には、家庭菜園がつくられていて、利用者と職員と一緒に収穫していると、近隣の方が声をかけてくれる。下駄箱にも生花が生けてあり、訪問者を歓迎している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには職員と利用者が協力して作った季節に合わせた飾り物があり、玄関には利用者の絵画が飾られている。リビングは清潔にするように心掛けており、10時、15時に換気。光の眩しい時はカーテンを引いている。一日3回のトイレ掃除は毎回除菌、又、浴室のマットは、一人ひとり交換しており、気持ちよく生活して頂くために、配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間は食事やレクリエーションを行なう場所でもあり、一人ひとりが納得されている場所を使えるようにしている。ソファでテレビを観る人や同席者と歌を歌っていることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスや洋服ダンスを利用し居室をレイアウトして頂いている。また家族の写真や孫の写真を貼って喜ばれているかたもいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	台所、トイレ浴室、居室は常時換気扇を運転している。10時、15時に窓を開け換気をしている。リビングは床暖房により足元から室内全体を暖めており、室温についても暑すぎたり、寒すぎないようにこまめに調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアすべてがバリアフリーになっている。廊下、トイレ、浴室には手すりが使いやすい高さに取り付けてある。洗面台、トイレは車椅子の利用者も使えるようになっている。機械浴もあるためその時の状況により入浴が可能である。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	リビングには手作りのカレンダーがあり、日にちや曜日は利用者に変えていただいている。それぞれの居室入り口には表札を掲げ、お風呂・トイレにも分かりやすく目印をつけている。また、自分の物と他人の物との区別がつくように、私物への記名を徹底している。洗濯物の整理、居室の掃除等、利用者の自立度に合わせた支援をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の庭には畑もあり芝生も植えてあり、自然と外に出やすい環境となっている。それぞれの方に合わせて、見守りや手引き法などの対応により外に出ていただいている。また、ウッドデッキには椅子が置いてあり、利用者同士が日向ぼっこをしながら談笑されていることもある。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームずうずうは、希望が丘駅から歩いてくることが出来る距離にあり、家族や友人が面会に来られる機会も多い。その時には、入居者様と面会者が気兼ねなく話すことが出来るように配慮している。また、キーパーソンの方が来られた際には入居者様の状況を説明するように努めている。昨年ずうずうではアクティビティーの充実を目標に挙げており、個々が好むレクリエーション、お手伝いを入居者様が自分の仕事のように行われている方が増えてきている。さらに無理なくご自分で出来ることが増え生活して頂けるよう支援していきたいと考えている。スタッフの意識向上のため個々に合った研修にも参加しホーム内の会議で、発表し意見交換ができるようになってきている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームずうずう
(ユニット名)	にじ
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	管理者 関水啓道
記入日	平成21年3月20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々との交流を目標に、明確な運営理念を掲げて、実現に取り組んでいる。自治会の行事にも参加させてもらっている。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関や事務室に理念を貼って、業務を行うまえには再確認することを決めている。ホーム会議で、理念に添ったケアが実践されているか振り返り、話し合いをしている。		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居契約時に理念の説明をするとともに、玄関を入るとすぐ目のとまる場所に、ホームの理念を掲げており、家族や訪問者に、理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の高校で文化祭の際、夕暮れ時に花火が打ち上げられ、利用者をお連れしている。その際近所の方から「夕方に外出することはいいですね」と声をかけられている。また散歩時公園内のごみ拾いなども行っている。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していて、回覧板を回したり、自治会の古紙回収に参加している。地域の理美容を定期的に利用していて、地元の人々との交流を図っている。		昨年の夏祭りに参加しており今年も参加したいと考えている。顔の見える関係を築きたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム、小規模多機能施設の理解を深めてもらう為に、地域の方々と、介護教室を行っている。介護に関する知識や、ケアの在り方等話し合い、暮らしのなかで役立てていられるように、取り組んでいる。12月に「風の音」がオープンし地域の方にも立ち寄って頂きたい、店内はバリアフリーになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム全体で、評価の意義を話し合い、振り返りや、今後の課題をあげて、現実実践していかれるように、具体的な取り組み方法をうちだしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告から、サービスの実際、それに伴う課題等、率直な意見交換の場になっている。会議メンバーの意見を反映して、取り組み内容の評価から、継続してサービス向上につなげている。2ヶ月に1度は確実に実施しており関係が築けてきている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で、現状報告している。その時に分からないことを相談している。又、生保担当者とは定期的に連絡をとったり区役所に行き意見を求めることもあり。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の抱えている問題等に関して、家族の意見、意向を反映しているが、利用者を支える視点から、代弁者の役割を果たしている。法人での勉強会において取り上げることもあり、また研修にも参加し知識をつけている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの在り方委員会が立ち上げられていて、マニュアルが作られている。勉強会やホーム会議で、話し合うことが多い。日常的に情報の共有が図られていて、見過ごしてしまう事はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、入居契約書他書類一式を、口頭で読み上げて十分な説明をしている。不安、疑問点がある場合は、理解し納得していただいてから、移り住んで頂いている。入居後においても、相談等に関しては、何時でも受け入れ体制がある。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から、利用者の意見や思いが、伝えて来られるような雰囲気作りをしている。相談、苦情窓口は管理者が対応し、管理者から統括責任者へ報告している。玄関を入ると目の止まる場所に、外部へ表せる、運営適正委員会の連絡先を表示している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時には、状況を見計らい日常の様子を伝えている。心身の状況変化や、面会に来られない家族に対しては、電話連絡して、状況を伝えている。直接利用者と家族が、電話で話しができるようにしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に公的窓口が記載されており、契約の際に説明している。また、第三者機関についても入居時に説明している。相談窓口として、管理者が対応して統括責任者へ報告している。問題内容によっては、法人全体で話し合い、運営に反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見や提案は特に重視している。その意見や提案を活かして、今後の支援方法を検討して、質の向上に努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その時の状況に応じて、職員の勤務変更をする時がある。一日の流れに変化をきたさない様に、馴染みの職員の配置をしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最小限であり代わる場合は、馴染みの職員と共に支援し、入居者様の負担を少なくしている。また月1回合同で行事をおこなっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月最終水曜日に行っている社内研修があり、各ホームが担当制で、その時々に応じた様々な内容の研修を行う。外部研修についても、随時必要に応じて参加し、研修報告書を統括責任者宛に、提出している。昨年11月フットケアについての勉強会の発表を行い実践している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ全体で16のグループホームがあり、勉強会や交流する機会がある。他のホームを見学して、より良いサービスの向上を目指している。横浜市の連絡会や、旭区のブロック会議に参加して、同業者と交流を図っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一人で悩まない。抱え込まない。と、日頃から統括責任者の方針である。小さな事でも、職員の悩みや相談は、管理者や課長に話している。他のグループとの交流や、社内旅行、納涼祭、忘年会等の催しで、親睦を図っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎日、一生懸命利用者に接する姿をみて、感謝の気持ちがいっぱいである。日頃の意見や提案を真摯に受けとめて、尊重していく。少し前を振り返ってもらふ事もあり、現在の個々の努力が結果として、表れていることを、意識してもらっている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談窓口は、企画室を通して。そこで、本人の求めていることや、不安なこと等十分に話ができるように、受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談窓口は、企画室を通して。利用する方や家族の抱えている問題をよく聴いて、受け止める努力をしている。その時は、統括責任者と管理者、企画室とで行う。又、ホームを見学して頂き、家族に雰囲気を感じてもらふ。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の相談から、よく話を聴いたうえで、現在必要としている課題から、緊急性のある問題を重視して、他の機関と連携をとりながら対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居決定する前に、ホーム内をよく見てもらっている。そこで、職員や入居者と、お茶を一緒に飲みながら話をして、雰囲気分かってもらう。趣味が同じで、話が盛り上がったこともある。入居している方の好意で、室内を見学させて頂くこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節のならわし、言われ等、花の名前など、利用者から学ぶことがたくさんある。また、できない方を助けあう場面や、冗談を言って笑いもあり、関係作りが良好に保たれている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事にお誘いする等する事により、一方的な関係から、お互いが理解できる関係作りが、築かれている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係や、家族の生活環境を配慮した上で、利用者が安心のある暮らしができるように、努めている。		家族の来所回数の少ない利用者は、寂しい思いをしないように、気配りのある支援を、心掛けている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	俳句仲間、友人が訪ねてきて、ご本人の時間を有意義にすごしている。小学生の孫が一人で訪ねて来ることもある。週に一度自宅へ帰る利用者もいて、家族関係が良好に保たれている。希望に応じてご家族や友人に、電話や手紙が出せるように配慮している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の役割分担が、自然の形で成り立っている。歩行困難の利用者には、できる人が配膳下膳をして、お互いに支えあう場面が、日課になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今後において、サービス利用が終了し、関わりを必要としている場合は、関係作りを大切にしていきたいと、考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに即した話しかけや対応が、自然の形で成り立ち、意思の疎通が図れている。又、伝えてこられない利用者は、日常の様子から情報交換して、対応方法を検討している。ご本人の希望に添った暮らしが続けていかれるように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具、机、又、大事な仏壇やお茶の道具を、今も使ってもらっている。趣味や習い事は、自宅にいた時と同じように、続けている。毎朝、仏壇の水を取り替えている利用者もいる。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	起床や就寝は、個々のペースを尊重している。日中の過ごし方は、それぞれの方に合わせて、心身状態を把握し、休息と活動する時間を区別している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の暮らしは、日常から職員が様子観察して、カンファレンスにおいて、ご本人の出来そうな活動や課題を話し合い、検討している。その時に、こちらから家族に相談することもあるが、家族からの希望もあり、介護計画を作成している。少しでも出来る事や、笑顔が増えるように心掛けている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その時の状況に応じて、見直しをしていく。対応できないときは、一度中止として、関係者と話し合っ、現状に即した計画をたてる。少しでも可能性が確認できれば、継続している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録から、利用者の可能性、状態変化に気づいている。記録されている事柄、日常の様子を、朝、夕の申し送り、業務日誌を通して共有し、見直す機会や今後の支援方法を、見つけたために活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関係医療機関みひらクリニック、高座渋谷メンタルクリニック、訪問看護ステーション、小規模多機能との関わりをもっている。また風の音にて音楽療法、外食などにも外出している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアによるハ-モニカ演奏、バイオリン大正琴、民謡や、運営推進委員に、民生委員の協力がある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の介護支援事業所には、その必要性に応じて相談の受け入れをしてくれるケアマネジャーがいて、専門的なアドバイスをしてくれている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが開催する行事を通して、利用者の作品を展示する機会を作ってもらい、利用者5名と見学している。又、地域ボランティアの紹介もある。		希望が丘もケアプラザが3月15日から開所するため、関わりを多く取りたいと考えている。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、主治医体制を2人にし内科が主な方と精神科の方で主治医を分けている。病状の変化によって主治医を交換することもあり。また訪問看護、訪問歯科、などの往診もおこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時に、オリエンテーション、内部研修、ホーム会議で接遇についての、教育を受けている。一人ひとりの人格を尊重した対応で接している。個人情報に関連した書類は、鍵のかかる場所に保管している。法人で、ケアの在り方委員会を立ち上げ、ケア全体について統一した情報、意識を持っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりに即した対応で、明るく自然体で接している。時により冗談を交えて、ご本人の気持ちが、自然に表出できるようにしている。意図的手段を用いて、利用者の反応を確かめる事もある。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日常の暮らしは特別でない限り、個々のペースに合わせた支援をしている。起床 就寝は利用者の意思を尊重している。食事は利用者職員と一緒に摂り、団欒の場になっている。入浴時間なども決まっていない。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人の希望で、通い慣れた地域の理美容に行き、好みの髪型にしている。毎朝洗面後に、手鏡を見ながら口紅をつける方、服装に興味のある方と様々、本人の意向に応じた支援をしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の日づけ貼りを利用者と一緒にし、その時に、献立を考えたりしている。食事の配膳は出来る人が行い、皆で口腔体操をしてから、食事をする。食器の片付けは、和気あいあい、コミュニケーションの場となる。時には畑から野菜を収穫し、すぐに食卓へ出す工夫もしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>食前に牛乳を希望するかた、健康のためにお酢を飲んでいる方、コーヒーやジュースの好きな方と様々ですが、利用者個々の好みを把握して対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を基に時間による排泄パターンを把握して、継続して支援をおこなっている。尿意の薄い利用者が、以前と比べ、失敗することが少なくなっている。失敗をしていない時に、安心の言葉をかけると喜んでくださいます。ご本人の自身回復へつながっています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的にいつでも入れるようになっており、希望や状況に応じていつでも入浴できる。脱衣所、お湯の温度を指定する方毎日シャワー浴を希望している方、浴槽に足を伸ばしてゆっくりつかり、入浴を楽しんでいる利用者、休息している方は、タイミングを合わせて支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の過ごし方は、活動、休息と区別して、それが習慣的になっている。午前 午後 夕方のひと時に休んでもらう利用者、食後の1時間を目安として、身体の負担を軽減する為に、休息してもらい。夜は室内温度、乾燥防止のため濡れたタオルを掛けて、気持ち良く眠れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ教室、お茶のお稽古に通っている利用者、趣味の俳句仲間が時々訪ねてきて、一緒におやつを食べながら談話、家事仕事が好きなお方には、職員と一緒に手伝いをお願いしたりと、その方らしく過ごしてもらっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、入居者自身での金銭管理はしていないが、理美容を利用したときのお金の支払いや、買い物に行った時に、レジでお金を渡して支払いを済ませるようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩のコースがいくつかあり、その時によってコースを変えている。季節の行事が近づくと、近くに歴史のある公園に行つて、写真を撮ったりしている。又地区センターの利用もして、利用者同士で卓球をして楽しんでいる。庭の家庭菜園の収穫は、戸外にできるちょっとしたきぶん転換になっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	グループ全体で行っている納涼祭があり、それには家族も一緒に参加してくれている。風の音にて外食や音楽療法に外出することもあり。		季節の良い時期に、手作り弁当を持って外出する機会を設けていきたい。その時に、家族も一緒に参加できるように、声をかけていきたい。

項目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		深夜を除いて、利用者が電話をしたいと希望してきた時には、其の都度対応している。郵便物のやり取りも、自由に行っている。手紙が届いた時は、郵便物取り扱い表に記録して、サインをもらい手渡ししている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している		気軽に訪問してもらおう体制が整っている。訪問して来られると、リビングやご自分の部屋など落ち着く場所で、過ごしてもらっている。お茶、コーヒー以外にも、おやつ時間と重なった時は、利用者と一緒に召し上がってもらっている。室内からドット笑い声が聞こえて来る時がある。
(4) 安心と安全を支える支援			
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		身体拘束を行わないことは、入居契約書に説明されている。毎月1回行われる勉強会で勉強したり、マニュアルが作成されている。日常のケアでは、当ホームでは身体拘束は行われておらず、する必要がない。臥床時、転倒の危険性がある方にはベットを外し和室の部屋のためマットレスを敷き対応している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		二階の入り口は、歩行練習している際の危険性や、階段があり転落による事故防止の為、やむを得ず施錠している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		キッチン是对面式で、フロアが見渡せる作りになっている。各部屋のドアの一部10センチ四方の小窓に布を張って、普段はプライバシーに配慮し見えなくしてあるが、物音や異常を察した時には、確認のため点検している。夜間は1時間毎に巡視を行い、利用者の安全確認している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		毎朝起床すると、電気カミソリで髭を剃る方や、爪は自分で整える利用者がいて、その方々にはご本人に管理をお願いしている。基本的には、ホームで管理している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		事故防止のマニュアルがあり、周知、徹底している。グループ全体の連絡体制が整っていて、事故防止に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師や管理者からの情報を共有し、応急手当や初期対応ができるように、普段から意識して話し合っている。社内研修で学ぶ事もある。救急蘇生法の研修も施設内で行いスタッフからも「行ってよかった」との声を聞くことができた継続して行っていきたい。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全員がリビングに集まっている時を利用して、緊急時の非難訓練をしている。ベランダには、災害用の水を備蓄してある。運営推進会議で、災害時における非難方法を話しあった。地域の人との交流が大事であり、今後も大切にお付き合いをしていく。防災頭巾も作成している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご本人や、家族に現状を伝えて理解してもらっている。そのうえで、支援方法を検討している。また入居者様からの意見も重要であるため話し合いを実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝食後のバイタルチェック、日曜日の体重測定、毎週木曜日の訪看による、健康チェック等を行い、小さな変化でも見逃さずに、勤務者同士で確認して、管理者へ報告している。管理者は訪問看護師へ状況報告し、対応相談している。そのときの指示により、必要性があれば受診している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、名前、日付、服薬時間が記されており、鍵のかかる場所に保管している。個人ファイルに処方せんがはいついて、すぐに確認がとれるようにしてある。症状に変化があったときには、管理者に報告して、看護師に連絡がいく。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消のために、牛乳を飲んでいる人もいるが、普段から野菜を多く取り入れて、食事をつくっている。繊維の多い食材、寒天を使ったおやつを工夫するなど、自然体で便秘が解消できるように努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科医により、口腔衛生と診療があり、指導指示助言をうけている。その方にあわせて、毎食後、声かけ、見守り、介助しながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に献立をチェックしてもらい、栄養が偏らないようにバランスの良い献立を、考えて調理している。特に野菜中心の薄味を心掛けている。その方に合わせて、食べる量、食べやすい大きさを把握している。一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量は、その都度記録しており、脱水症にならないように注意している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者及び職員の予防接種施行。感染症委員会が立ち上げられていて、マニュアルが作成されている。蓋付きのパケツの中に、緊急時に対応できる一式を準備している。又、うがい、手洗いの励行を全員が周知、徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、台所布巾漂白、天日干し。まな板、包丁熱湯消毒、漂白をしている。一週間に1度冷蔵庫のアルコール消毒と、食材にすべて日付を記入している。調理した食材は、長時間放置しない、残り物は捨てることを徹底している。キッチンには常に清潔を心掛け、床掃除一日2回行っている。食材も必要な量のみを購入するように心掛けており、新鮮な物を提供		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	歩きやすく、車椅子が通れるように、玄関周りは広いスペースをとっている。四季折々の花の鉢植えで、周りの雰囲気明るくしている。庭には、家庭菜園がつけられていて、利用者と職員と一緒に収穫していると、近隣の方が声をかけてくれる。下駄箱にも生花が生けてあり、訪問者を歓迎している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた手作りの飾り物や、利用者の絵画、俳句が玄関やリビングを豊かにしてくれている。共用の空間は清潔を心掛けており、10時、15時に換気。光の眩しい時はカーテンを引いて、利用者の負担を軽減している。一日3回のトイレ掃除は毎回除菌、又、浴室のマットは、一人ひとり交換しており、気持ちよく生活して頂くために、配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のくつろぐ場所が、自然の形で成り立っている。リビングにあるソファで、ゆったり過ごしている利用者や、一人になりたい時には、和室があり、そこで日光浴をしている方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や今も、利用者の使い慣れた家具や机、又、家族の写真や思い出の品を飾って、ご本人の好みで過ごしていただいている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	台所、トイレ浴室、居室は常時換気扇を運転している。10時、15時に窓を開け換気をしている。リビングは床暖房により足元から室内全体を暖めており、室温についても暑すぎたり、寒すぎないようにこまめに調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアすべてがバリアフリーになっている。廊下、トイレ、浴室には手すりが取り付けられている。洗面台、トイレは車椅子の利用者も使えるようになっている。又、廊下での歩行練習や、アクティビティで音楽体操を楽しむなどしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	事務所前には手作りのカレンダーがあり、日にちや曜日は利用者様に変えていただいている。それぞれの居室入り口には表札を掲げ、お風呂・トイレにも分かりやすく目印をつけている。また、自分の物と他人の物との区別がつくように、私物への記名を徹底している。洗濯物の整理、居室の掃除等、利用者の自立度に合わせた支援をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内で流しソーメンを行ったり、家庭菜園で野菜の収穫を楽しんでいただいている。散歩に出掛けられない時など、日当たりの良いベランダで日光浴、外気に触れて頂いている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

相鉄線希望が丘駅より、徒歩10分の距離にある「グループホームずうずう」です。職員は理念を目標に「ひとり一人との出会いを大切にし地域との交流を図りながら笑顔のたえない居心地のよいホーム」を目指しています。日常生活の中から「その人らしい生活」を送って頂く為「どのような事を望んでいるのか？」を考えています。全員が参加されている、食事の前の口腔体操・リハビリ体操は入居者様の毎日の習慣となって楽しみにもされております。毎日の散歩にもかかわらず少しでも活動的な生活をして頂きたいと思っています。また地域の方々との何気ない会話も出来る様になりました。今後も地域との交流を図りながら入居者様が、住み慣れた地域で安心して「その人らしい生活」を送って頂ける様、職員一同努力していきたいと考えています。